

## コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc.

コウヤマキ科 *Sciadopityaceae*

1. 利用対象部位：樹皮

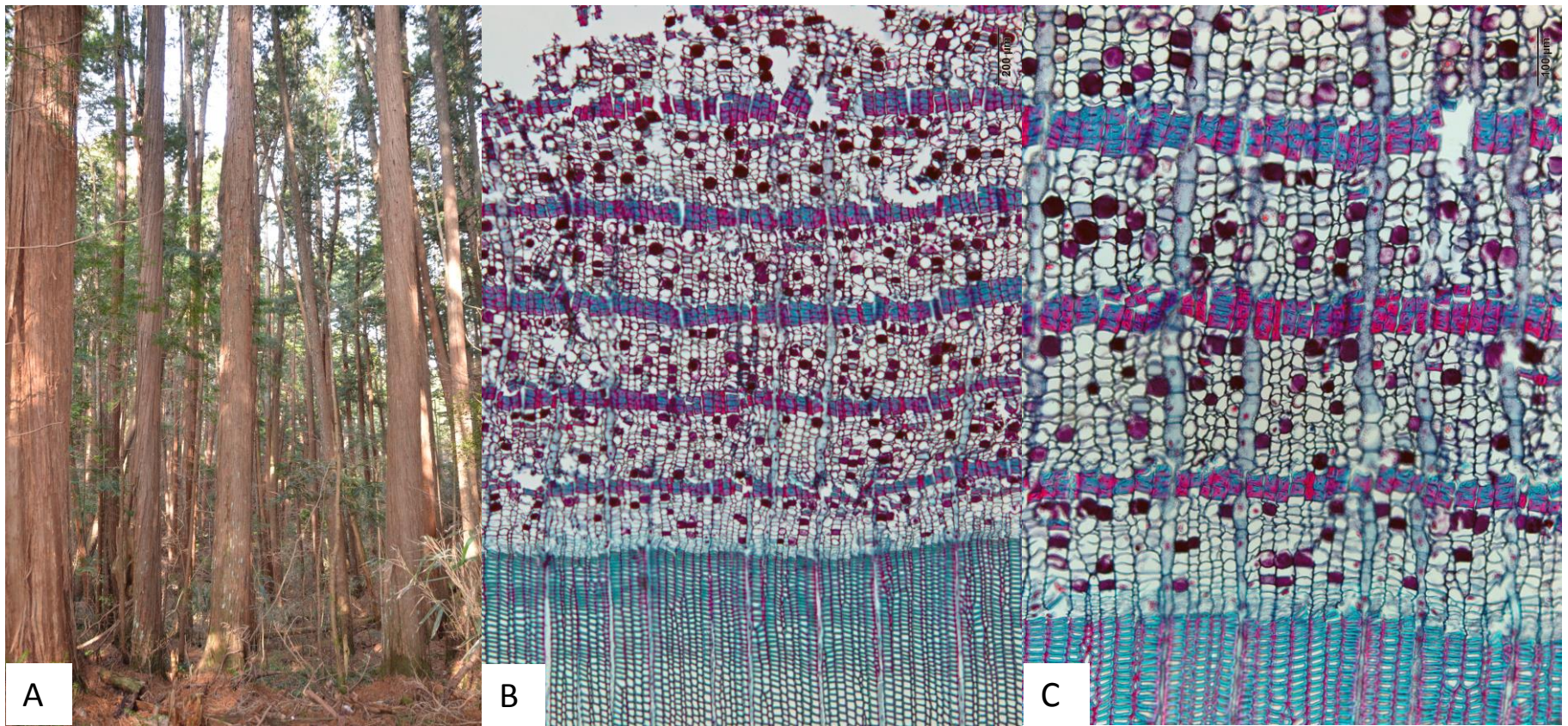
2. 組織形態：

樹皮は縦に長く割れ目が入り、縦長のテープ状にはげ落ちる。

内樹皮の基本構造は篩細胞-柔細胞-篩細胞が数回繰り返して10~20細胞層となった部分と、断面方形~長方形で厚壁の繊維細胞が2~5細胞の層となった部分とが交互にある。放射組織は単列である。

3. 利用例：「槇肌」（まきはだあるいはまいはだ）と呼ばれ、屋根葺き材、和船、井戸、桶などの水漏れを防ぐ詰め物として使われる。縄担い、特に火縄に使われる。

4. 遺跡出土遺物：これまで木材の出土は多く知られるが、「コウヤマキの樹皮」とされたものは知られていない。



A:コウヤマキの樹皮(和歌山県高野山)。 B&C:内樹皮の横断面とその拡大。画面下部に二次木部および形成層帯がある。篩細胞-柔細胞-篩細胞の繰り返しでできている10~20細胞層ほどの部分と2~5細胞層くらいの繊維細胞の層が交互にある。赤紫色に染まった断面方形~長方形の細胞が繊維細胞。樹皮の放射組織は単細胞幅。